

みらいのたからプロジェクト

第1回イベント 開催

～大分県漁業協同組合 佐賀関支店 裏側ツアー～



郷土愛と生きる力を育む

「みらいのたからプロジェクト」は、子どもたちが大分の豊かな自然や地域に根ざした仕事に直接触れ、心に生まれた「驚き・喜び・慈しみ」を深く刻む子ども主体型の体験プロジェクトです。

10年、20年先も自分たちの生まれ育った大分を愛し、誇りを持って歩いていける“心の土壌”を育むことを目指して始動しました。

記念すべき第1回となる今回は、たくさんのご応募をいただき、抽選で選ばれた33組・90名のご家族が参加しました。

関あじ・関さばで全国的に知られる佐賀関の漁港を舞台に、普段は見ることのできない漁業の「裏側」を巡る体験ツアーを開催いたしました。

4つの体験プログラム

① 漁協施設・漁船見学（一本釣りの技と鮮度を保つ工夫）

一本釣り漁業の買い付け現場や、実際に漁に使う漁船の内部を見学しました。

佐賀関の「関あじ・関さば」は、魚に傷をつけないよう手で触れずに買い付けが行われ、鮮度を保つために迅速に「締める」技術が施されます。

職人技のような素早い作業を目の当たりにした子どもたちからは「かっこいい!」「速くてびっくりした」と感嘆の声が上がりました。

船上体験では、漁師さんへ積極的に質問する姿が見られました。



② 伝統の「面買（つらがい）」体験と重さ当てクイズ

「面買」とは、水面から魚の重さを目視だけで見極める伝統的な取引方法です。

魚を網ですくって傷つけるのを防ぐ、魚への優しさから生まれた伝統技法であることを学びました。

クイズ企画では、関あじの重さを親子で予想。

子どもたちは魚の大きさや形を見比べ、親子で相談しながら真剣に答えを考えていました。

正解に近かった参加者には関あじが贈られ、会場は大いに盛り上がりました。



③ 佐賀関タッチプール（生きもの観察と探究心）

佐賀関の海に暮らすヒトデやエイなどのさまざまな海の生きものと触れ合えるタッチプールを開設。

最初は恐る恐る手を伸ばしていた子どもたちも、一度触れると目が輝き、手触りや動きをじっくり観察。

「博士」として参加した専門家へ「何を食べているの?」「どうしてこんな形をしているの?」と次々に質問が飛び交い、実体験から溢れ出す探究心が強く感じられました。



④ 海クイズとシャークフライの試食

海の環境や地産地消に関するクイズを楽しんだ後は、佐賀関で水揚げされたサメの観察と、揚げたての「シャークフライ」の試食を行いました。

「サメって食べられるの？」と驚いていた子どもたちも、一口食べると「美味しい！」と大喜び。

知識・観察・実食が一つに繋がり、自分たちの命が海の命によって支えられていることを実感する貴重な食育の機会となりました。



中高生リーダーの活躍

本イベントを影で支えてくれたのが、地元・佐賀関地域の中高生ボランティアのみなさんです。

各グループのリーダーとして子どもたちの安全を見守り、優しく声をかけながらツアーを案内してくれました。

地元の魅力を知る若者が、次世代の子どもたちへその素晴らしさを手渡していく姿は頼もしく、地域全体の絆を深める大きな要素となりました。



まとめ

今回の「みらいのたからプロジェクト 第1回」は、子どもたちが「本物」に触れることで感動し、自ら学ぶ取る力の芽生えを実感できる素晴らしい機会となりました。

「みらいのたからプロジェクト」では、今後も子どもたちが大分の自然や仕事の魅力に触れ、郷土への愛着と未来を生きる力を育める体験の場をお届けしてまいります。